



# ボックスカルバート 全国ボックスカルバート協会規格

側溝類  
管渠・暗渠類  
カルバート類  
道路類  
残存型枠・シートライニング  
擁壁類  
L型擁壁類  
水路類  
河川類  
機能性コンクリート  
その他

## ●種類及び規格

外圧強さによる区分		土被りの範囲	
種類	呼び寸法 (mm) 内幅 × 内高	活荷重を 考慮する場合	活荷重を 考慮しない場合
RC-1種	600×600~3500×2500	0.2m~3.0m	0m~3.0m
RC-2種	1000×800~3500×2500		

注 ①ボックスカルバートの外圧強さによる区分は、1種製品と2種製品があります。1種、2種とも形状寸法、許容応力度法による設計における適用土かぶり条件の範囲等は同じですが、2種については、主としてコンクリート用膨張性混和材を使用し、ひび割れ強度が大きくなっています。  
②上記土被り範囲外で使用する場合は別途設計によるものとします。

## ●寸法表

(単位: mm)

呼び寸法 (B × H)	内幅 B	内高 H	有効長 L	版厚			ハンチ高さ C	差し口長さ ℓ <sub>1</sub>	受け口長さ ℓ <sub>2</sub>	参考重量 (kgf/本)	
				T <sub>1</sub>	T <sub>2</sub>	T <sub>3</sub>				標準形	
600×600	600	600	2000	130	130	130	100	60	40	2000	
700×700	700	700	2000	130	130	130	100	60	40	2260	
800×800	800	800	2000	130	130	130	100	60	40	2520	
900×800	900	600	2000	130	130	130	100	60	40	2390	
		900								2780	
1000×800	1000	600	2000	130	130	130	150	60	60	2900	
		900								3160	
1100×800	1100	600	2000	130	130	130	150	60	60	3810	
		900								3420	
1200×800	1200	600	2000	130	130	130	150	60	60	3160	
		900								3680	
1300×800	1300	600	2000	140	140	130	150	60	60	4070	
		900								4100	
1400×800	1400	600	2000	150	150	130	150	60	60	4540	
		900								4470	
1500×800	1500	600	2000	160	160	140	150	60	60	5170	
		900								5600	
1800×800	1800	600	2000	170	170	150	150	80	80	6050	
		900								6500	
2000×800	2000	600	2000	180	180	160	200	80	80	6980	
		900								7460	
2200×800	2200	600	1500	200	200	180	200	80	80	7780	
		900								6570	
2300×800	2300	600	1500	200	200	180	200	80	80	7110	
		900								6320	
2400×800	2400	600	1500	210	210	190	200	80	80	6720	
		900								6990	
2500×800	2500	600	1500	220	220	200	200	80	80	7400	
		900								7530	
2800×800	2800	600	1000	240	240	220	200	80	80	8100	
		900								7340	
3000×800	3000	600	1000	260	260	240	300	80	80	7790	
		900								8090	
3500×800	3500	600	1000	310	310	250	300	80	80	8840	
		900								5740	
600×900	600	600	2000	130	130	130	100	60	40	6290	
		900								6840	
700×900	700	600	2000	130	130	130	100	60	40	7170	
		900								6780	
800×900	800	600	2000	130	130	130	100	60	40	7370	
		900								7970	
900×900	900	600	2000	130	130	130	100	60	40	8570	
		900								9150	
1000×900	1000	600	2000	130	130	130	150	60	60	9780	
		900									

※上記サイズ以外については御相談下さい。

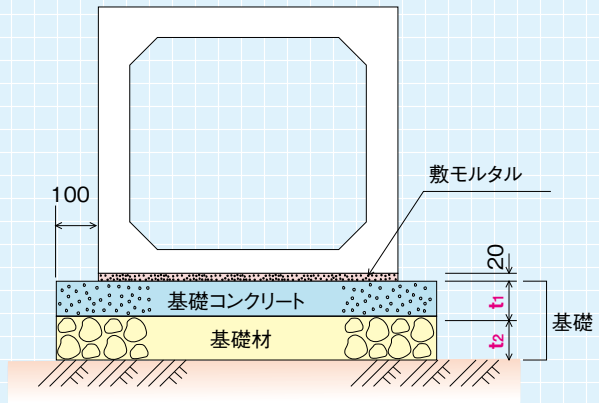
# ボックスカルバート 全国ボックスカルバート協会規格

## 標準施工図

普通地盤の場合は、基礎材を敷均した上に基礎コンクリートを打設した基礎形式とする。なお、基礎の形状及び厚さは、下記図及び下記表を目安とする。

●基礎の厚さ (単位: mm)

呼び寸法	t <sub>1</sub>	t <sub>2</sub>
600×600 ~ 1000×1500	100	150
1100×1100 ~ 2000×2000	150	200
2200×1800 ~ 3500×2500	200	250



## PRODUCT

## ボックスカルバート



## 縦方向連結型

縦方向連結型は、製品ブロックを設置した後に、縦方向をPC鋼材にて連結する敷設方式である。

次のような場合は、ボックスカルバートの縦方向の連結を行うのが望ましい。

- ①地下水位が高く止水を考える場合。
- ②カルバートの縦方向に荷重が大きく変化する場合。
- ③地盤が良くない場合。
- ④基礎地盤の支持力が変化するると予測される場合。

## 協会規格 標準積算歩掛

1. 適用範囲  
全国ボックスカルバート協会規格のボックスカルバート据付作業に適用します。
2. 施工概要  
施工フローは下記を標準とします。

●ボックスカルバート



注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみです。

3. 機種を選定

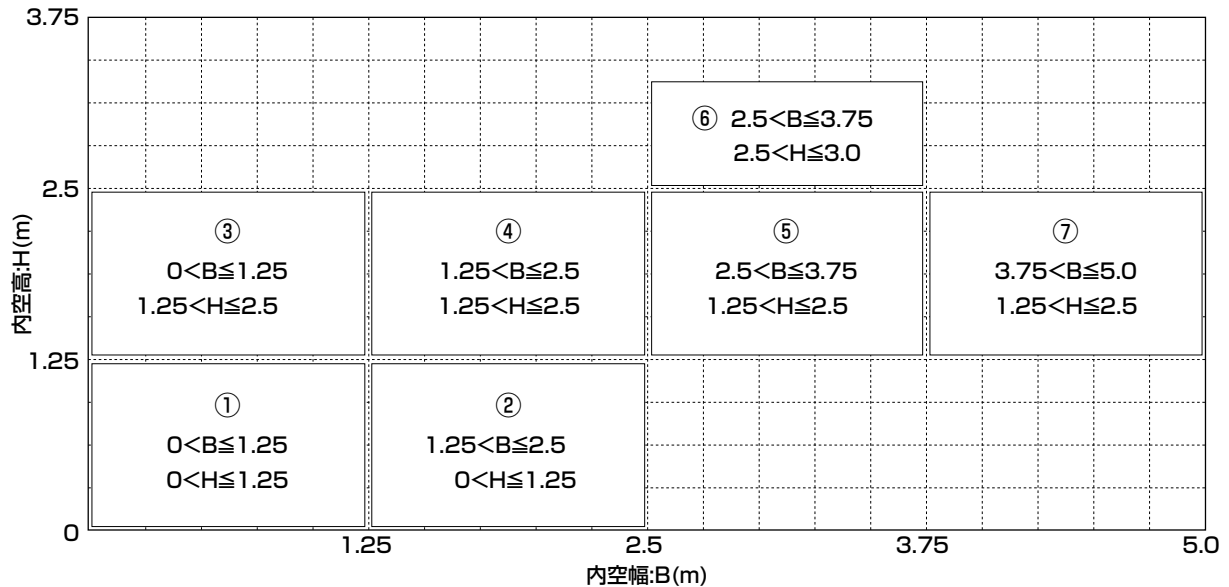
使用する機械の機種・規格は、次表を標準とします。

■機種・規格(表1)

構造物名称	規格区分	機械名	規 格
ボックスカルバート	内空高、内空幅 2.5m以下とL=1.5mの⑤	ホイールクレーン	油圧式 排出ガス対策型 25t吊
	上記以外の区分範囲	ホイールクレーン	油圧式 排出ガス対策型 45t吊

ボックスカルバート据付歩掛は、次表の通りとします。

■歩掛区分(表2)



●ボックスカルバート据付歩掛(表3)

(10m当り)

製品長	歩掛区分	世話役 (人)	特殊作業員 (人)	普通作業員 (人)	ホイールクレーン 運転(日)	雑工種率(%)		諸雑費 (%)
						基礎砕石	均しコンクリート	
2.0m/個	①	0.6 (0.8)	0.4 (0.5)	1.3 (1.7)	0.3 (0.3)	28 (23)	52 (43)	11 (13)
	②	0.9 (1.3)	0.5 (0.8)	1.8 (2.8)	0.4 (0.4)	37 (27)	88 (63)	
	③		27 (19)	56 (40)				
	④		29 (19)	69 (47)				
	⑤		32 (21)	82 (55)				
1.5m/個	②	1.2 (2.3)	0.8 (1.4)	2.5 (4.7)	0.5 (0.5)	27 (16)	64 (38)	7 (6)
	④	1.6 (2.7)	1.0 (1.7)	3.3 (5.7)	0.6 (0.6)	22 (14)	53 (34)	
	⑤	2.5 (3.9)	1.6 (2.5)	5.2 (8.1)	0.9 (0.9)	23 (16)	60 (41)	
	⑥	3.7 (5.4)	2.3 (3.4)	7.7 (11.2)	1.3 (1.3)	14 (11)	38 (28)	
1.0m/個	⑦	5.0 (7.0)	3.1 (4.3)	10.0 (14.4)	1.7 (1.8)	18 (14)	28 (22)	4 (4)
	⑤	3.7 (5.3)	2.3 (3.4)	7.4 (11.1)	0.9 (1.0)	16 (13)	41 (32)	
	⑥	5.9 (7.7)	3.5 (4.8)	11.8 (16.2)	1.3 (1.5)	11 (9)	26 (22)	
	⑦	8.1 (10.1)	4.7 (6.2)	16.2 (21.3)	1.8 (2.1)	12 (10)	19 (17)	

(注) 1) 凡例 ( ) 書き :PC 鋼材による縦連結の場合 (ボックスカルバートの据付 +PC 鋼材による縦締め)。

2) 本歩掛で対象としている製品は、1 ブロックを 1 部材で構成するボックスカルバートである。

3) 歩掛は、運搬距離 30m 程度までの小運搬を含むものであり、床掘り、埋め戻し、残土処理は含まない。

4) インバート形状の場合、内空高は最大値とする。

5) ホイールクレーンは賃料とし、標準的な規格は表 1 による。ただし、作業半径等現場条件と異なる場合は、別途検討する。

6) PC 鋼材、定着金具は別途必要量を計上する。

7) 縦締め歩掛は、直線部のみ適用する。

8) 雑工種、諸雑費は労務費とホイールクレーン運転費の合計額に表 3 の率を乗じた金額を計上する。

ただし、諸雑費として計上する金額は上限値とする。なお、雑工種及び諸雑費に含まれる内容は次のとおりである。

▼ 雑工種 (基礎砕石) / 敷設・転圧労務、材料投入・締固め機械運転経費、砕石等材料費。

▼ 雑工種 (均しコンクリート) / 打設・養生・型枠製作・設置・撤去労務、電力に関する経費、シュート・ホッパー・パイプレータ損料、コンクリート、養生材、均し型枠材料費。

▼ 諸経費 / レバーブロック・油圧ジャッキ (ポンプを含む)・グラウトポンプ・ミキサーの損料、敷モルタル・目地モルタル・グラウト材等の材料費

9) 基礎砕石の敷均し厚は、25cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途計上する。

10) 雑工種における材料は、種別・規格に関わらず適用できる。

11) 本歩掛には、均しコンクリート型枠施工時の剥離材塗布及びゲレン作業を含む。